

項目	確認事項	届出内容
基本情報	大学等名1(代表大学等)	和歌山大学
	大学等名1(代表大学等)※カナ	ワカヤマダイガク
	大学等名1(代表大学等)※学校コード	F130110109356
	大学等名1(代表大学等)学校本部所在地	和歌山県
	大学等名1(代表大学等)学校種別	国立大学
	科目名	インターンシップ(科目名は学部により異なる)
	学部・研究科等名	全学部(キャリアセンターにおいて一括管理)
	担当教職員名・役職	木村亮介・キャリアセンター講師、各学部担当委員長、各指導教員
	受講者数実績年度	令和2年度
	受講者数※インターンシップ参加者数	61
	受入企業等数	94
	受入企業等名	(株)紀陽銀行、きのくに信用金庫、和歌山県庁、和歌山市役所、(株)ニッセイコム、三菱電機(株)冷熱システム製作所、中野BC(株)、(株)テレビ和歌山、紀陽情報システム(株)、(株)島精機製作所、(株)インテリックス、北畑会計事務所、和歌山県農業協同組合中央会、溝端紙工印刷(株)、他
	インターンシップの分類	1.長期(概ね1か月以上)インターンシップ 3.海外インターンシップ 5.他県をまたぐ広域インターンシップ 6.低学年(大学1年次~2年次程度)からのインターンシップ 7.大学院生を対象とした研究インターンシップ 8.大企業・グローバル企業でのインターンシップ 9.中小企業でのインターンシップ 10.地元企業・経済団体や地方公共団体等との協働による地域密着型のインターンシップ
	上記以外のインターンシップの分類(記述欄)	
要素①	1-1.当該インターンシップは、就業体験を伴うものになっていますか。	1.はい
	1-2.該当する就業体験	1.企業等における業務への従事 2.企業等における課題の解決(例:ワークショップ、PBL型プログラム、課題解決ワーク、課題事例研究等)
	1-2.で「3.その他」の就業体験の内容	
	1-3.上記回答内容に関する詳細	企業等の現場において就業体験を積むことを通じて、専門分野における高度な知識・技術に触れながら実務能力を高めることによって、自主的・自立的に行動できる人材の育成を目的としている。地域の経営者協会等とも連携し、各学部の専門に応じた幅広い分野・形態のインターンシップを実施している。
	2-1.当該インターンシップを正規の教育課程の中に位置付け、シラバス等において、インターンシップの実施目的や期待する教育的効果を明確にしているなど、体系的なプログラムとして単位認定が行われていますか。	1.はい
	2-2.該当するインターンシップの内容	3.当該インターンシップは、専門教育科目として実施している 5.当該インターンシップは、選択必修科目として実施している 6.当該インターンシップは、選択科目として実施している 7.当該インターンシップは、授業期間中に実施している 8.当該インターンシップは、休業期間中に実施している
	2-2.「9.その他」で実施しているインターンシップの内容	

要素②	2-3.当該インターンシップを実施する年次	大学 学部1年
		大学 学部2年
		大学 学部3年
		大学 学部4年
		大学院 修士1年
		大学院 修士2年
2-4.当該インターンシップで付与される単位数	大学 その他	
	大学院 その他	
2-5.上記回答内容に関する詳細	<p>実習に参加して、仮説を検証することにより、①業務成果から実績②自己成長③専門知識・研究④進路選択の面で、他の専門科目等における学習内容と関連付けながら、学習効果を得ることを意図し、シラバスやガイダンス等で説明している。</p> <p>ワークシート（報告書）とガイダンスを工夫することで、インターンシップを最大限、複合的に活用し、受け身ではなく自らの行動を起こすことを促すことができている。</p> <p>単位数は学部・研究科によって異なり、時間数等により1～14単位付与される。</p>	
要素③	3-1.インターンシップの実施前の学生・企業双方との目標設定や目的のすり合わせや、実施後の振り返り等を行うなどの適切な学修の時間が設けられていますか。また、インターンシップの教育的効果が発揮されるようインターンシップ期間中に適切なモニタリングを実施していますか。	1.はい
	3-2-1.該当する事前学習の内容	1.学生に対して、社会人としてのマナーや守秘義務の遵守、パソコンの使用方法等を身に付ける授業等を行っている
		2.学生が受入企業の事業内容等に関する事前の調査・研究を行っている
		3.学生に対して、インターンシップにおける成果目標の確認や行動計画等の策定を行っている
		4.学生に対して、正規の教育課程としてのインターンシップの実施目的や期待する教育的効果の理解を促している
	3-2-1.「5.その他」で実施している事前学習の内容	
	3-2-2.該当する事後学習の内容	1.日報やレポート等を用いて、現場での体験の振り返りを行っている
2.報告会等により、インターンシップの成果について、受入企業や担当社員へのフィードバックを行っている		
3.振り返りを実施し、成果目標等の達成について確認を行っている		
3-2-2.「4.その他」で実施している事後学習の内容		
3-2-3.該当するモニタリング	3.その他	

	3-2-3.「3.その他」で実施しているモニタリングの内容	特に大学が直接提携している実習先の参加学生には、適宜電話・メールにより学生と企業のサポートを行っている。
	3-3-1.事前学習の内容に関する詳細	インターンシップの意義等を説明するガイダンスとは別に、インターンシップに参加する学生は全員「マナー講座」「成長力講座」「仕事力講座」の3コマを必ず受講することになっている。特に成長力講座においてインターンシップ活用の4つの観点で目的・目標設定を行い、報告書において振り返ることができるようにしている。
	3-3-2.事後学習の内容に関する詳細	10月には夏休みにインターンシップに参加した学生による「インターンシップ事後報告会」を実施している。インターンシップに参加した全学生に受講を義務付けており、受入企業や本学教員にも参加を促しています。学生が学んだことをポスターセッション形式で発表する（振り返り講座でポスター作成の指導をする）。教室で実施できない場合は動画発表としている。
	3-3-3.モニタリングの内容に関する詳細	特に大学が直接提携している実習先の参加学生には、適宜電話・メールにより学生と企業のサポートを行っている。
要素④	4-1.インターンシップの教育的効果を定量的・定性的に把握できる手法・仕組みを取り入れていますか。	1.はい
	4-2.該当する教育的効果を測定する仕組み	1.アンケートやレポートの作成をインターンシップの実施前後で実施し、学生の意識や行動の変容について確認を行っている
	4-2.「4.その他」で実施している教育的効果を測定する仕組み	
	4-3.上記回答内容に関する詳細	「業界・職種・企業分析」、「社会人基礎力チェック」を事前に行い、「目的・目標シート」と題し、①業務成果面、②自己成長・実務能力面、③専門知識・研究面、④進路選択面について、目的・状態目標・行動目標のレポートを作成させている。実習後には、振り返り・報告用のワークシートに、上記①～④について、それぞれ達成度と振り返りを書かせている。
要素⑤	5-1.一定期間のまとまりのある連続した5日間以上のインターンシップの実施期間を確保していますか。	1.はい
	5-2.該当する実施期間	1.連続した5日間以上の実施期間を確保している
		2.事前・事後学習との組み合わせにより、計5日間以上の実施期間を確保している
		3.複数の企業等においてインターンシップを実施することにより、計5日間以上の実施期間を確保している
	5-2.で「1.連続した5日間以上」を選択した場合	事前・事後学習を合わせて7日間以上（内インターンシップ実施期間3日間以上）
	5-2.で「2.事前・事後学習を合わせて5日間以上」を選択した場合	事前・事後学習を合わせて7日間以上（内インターンシップ実施期間3日間以上）
	5-2.で「3.複数の企業等を合わせて5日間以上」を選択した場合	事前・事後学習を合わせて7日間以上（内インターンシップ実施期間3日間以上）
5-2.「4.その他」の実施期間の内容		

	5-3.上記回答内容に関する詳細	日数ではなく、原則インターンシップ実習実施時間30時間以上を要件としています。
要素⑥	6-1.大学等と企業の双方が関与し合い、学生に対する教育的効果の最大化に努めているなど、大学等と企業が協働してプログラムを設計していますか。	1.はい
	6-2.該当する大学等と企業の協働取組の内容	1.企業や産業界にとっての意義やメリット、必要な成果等を考慮し、企業と協働してプログラムを設計している
		2.大学等が行う事前・事後学習等に企業等も参画し、協働して実施している
		3.企業担当者が学生に対して適切に関与し、目標達成に導くなど、大学として必要な支援を行っている
		4.受入企業等も、インターンシップ中の学生に対する評価を実施している
6-2.「7.その他」で実施している大学等と企業の協働取組の内容		
6-3.上記回答内容に関する詳細	基本的には大学が直接提携している企業等に対して、協働でプログラム設計等を行っている。担当者が少人数のため、個別ケースの全てのコンサルティングはできないことから、仕組み作りに注力している。具体的には、企業にワークシートを配付して記入を求めている。「インターンシップ目的・戦略整理シート」と「プロジェクト設計シート」を配付している。	
7.上記①～⑥で回答した各要素の内容について、詳細が記載されているシラバスなどの資料が閲覧できる大学等のウェブサイトのURL	<a href="https://web.wakayama-u.ac.jp/syllabus/">https://web.wakayama-u.ac.jp/syllabus/</a>	
問い合わせ先	大学等名	和歌山大学
	担当部署名	キャリアセンター
	担当者役職名	講師
	担当者氏名	木村亮介
	電話番号	073-457-7136
	メールアドレス	<a href="mailto:intern@ml.wakayama-u.ac.jp">intern@ml.wakayama-u.ac.jp</a>